

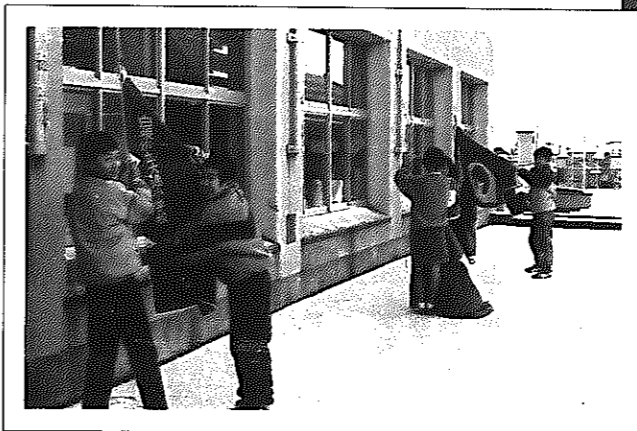
鬼だ、やつつける！ 連合青年団 節分豆まき

二月四日、市内の保育園に恐ろしい赤鬼や青鬼が現れ、かわいい子供たちをさらっていかうとしました。しかし、子供たちは豆つぶで鬼をやっつけ、みんな無事でした。  
この鬼の正体、実は連合青年団の若者。意地悪鬼や好き嫌い鬼など、子供たちからやつつけてほしい鬼になり、九つの保育園を回りました。  
「最近では優しいお父さんが多いので、少しは怖い体験も必要かと、青年団にお願いしました」と根岸保育園。怖い思いをした後は、優しい福の神がおいしいお菓子をプレゼント。子供たちは大喜びの一日でした。



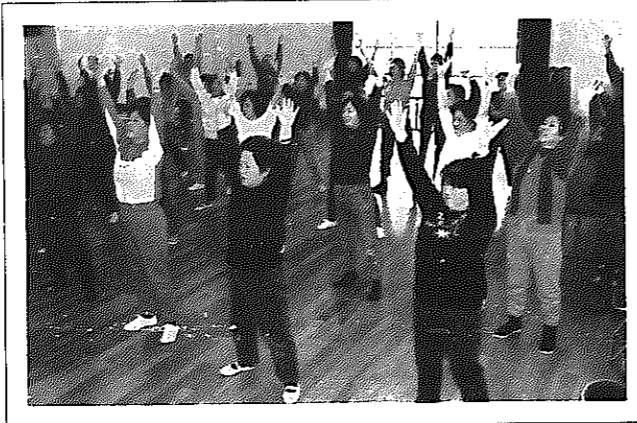
新しい旗はいい気分 大通小学校

大通小学校では、昨年四月から毎日、児童玄関上の三本の掲揚塔に校名旗、児童会旗、市旗を掲げています。しかし、強い風のため一年間で三つの旗はぼろぼろに。そこでPTAが、文化祭のバザーの収益金で校名旗、児童会旗を寄贈しました。  
荒海校長は「旗を掲揚することで、子供が白根市民の自覚を持つようになるのでは。旗がたなびているのが見えるとさわやかな気持ちになりますし、父兄の評判もいようです」と話します。六年生が毎日交替で掲揚していますが「新しい旗は気持ちがいい」と元気いっぱいでした。



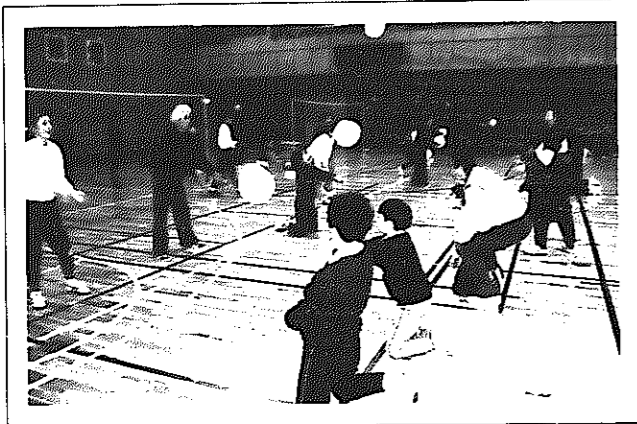
本健診で成果を見よう 血管教室

昨年の八月から、保健センターを会場に五回開催された「いきいき血管教室」。主婦を中心とし、コレステロール値が少し気になる三十四人の皆さんが受講しました。  
バランスのよい食事と適度な運動の大切さを目的としたこの教室、最終回の一月二十九日は、血液検査や食生活の調査結果の話し合い、運動指導などが行われました。教室が終わった後、受講生たちは「これからも食生活の改善や運動を続け、六月の基本健診をみんな受診して成果を見よう」と意見が一致。ふだんからの健康づくりに意欲満々でした。



子供と一緒に楽しめます ファミリースポーツ教室

スポーツを通じて家族の触れ合いを深めてもらうと、カルチャーセンターでは二月十四日から六回シリーズで「ファミリースポーツ教室」を開催。初日の十四日には、親子連れを中心に約四十人が参加しました。  
この教室では、バレーボールのほば二倍の大きさの柔らかいボールを使った「ソフトバレーボール」を体育指導員が教えます。参加したお母さんは「ふだん仕事や家事に追われ子供と過ごすことが少ないので、参加してみたい。子供と一緒に遊んで楽しむし、運動不足の解消にもなります」と話していました。



地域の特色が出せたかな 白根高校 3年生

自分たちの地域を調べようと、地理の授業で白根高校の三年生がいろいろな角度から白根を分析。ガソリンスタンドの分布や白根市に多い名字、大通地区の人口増加など、グループ毎に地域調査に取り組みました。指導に当たった川合先生は「テーマの決め方に苦労したようですね。資料から問題意識を生み出すことができれば」と指導方針を。白根の風の特徴についてレポートした石口君、吉田君、花沢君、関根君は「昔と比べると風の大きさが随分変わっています。集めた資料を図に表すのに苦労しました」と振り返っていました。



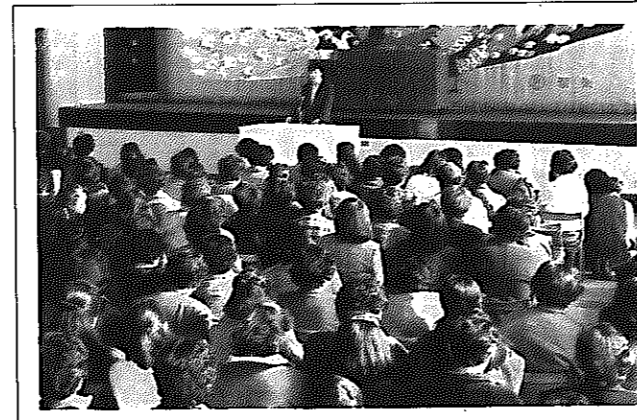
プラ並木にうれしい援助 青年会議所

白根青年会議所の国道8号をポプラ並木にしようという運動に対し、二月四日、コメリ緑資金から二百万円が贈られました。この資金はコメリホームセンターが利益の一部を社会還元しようとしたもの。審査の結果選ばれた十五団体に、総額一千四百六十万円が贈られました。  
「アイデアはあるが、慢性的な資金不足で事業が進まず困っていた」という同会議所。二瓶理事長は今後の活動の大きな助けとなる資金援助に「私たちの活動の正当性が認められただけでなく、自信の裏付けにもなる」と、喜びを語っていました。



活動体験を発表 市連合婦人会

一月二十日、市連合婦人会の体験発表会が産業厚生会館で行われました。今回で二十一回目を迎え、名称も実績発表会から体験発表会に変更。会場には四百人近い婦人が訪れ、仲間の発表に耳を傾けました。  
六人の発表者は日ごろの活動体験をやや緊張ぎみに発表。審査の結果、庄瀬の古川三千子さんが最優秀に選ばれ、三月下旬に行われる県大会に参加することになりました。審査に当たった派遣社会教育主事の佐藤正則さんは「表現力もあり、今後の活動の方向が示されている素晴らしい発表でした」と話していました。



起のいいお年玉 年賀はがき

一月二十五日、白根郵便局で年賀はがきの一等に当選した坂口正敏さん（親和町）と、二等に当選した高橋久子さん（味方村）に目録が手渡されました。当たる確率は一等が百万通に二本、二等が五本という川窪局長の話に、お正月から縁起がいいと二人はにこにこ顔。「五百枚の中一枚で、新井の警察署員から届いたものです。電話で教えたらびっくりしていましたよ」と坂口さん。  
白根郵便局の年賀状配達総数は七十四万五千通。確率的にはまだまだ一、二等が出そうな気配です。番号を確かめていない人はお早めに。

